

第15回少年サッカー教室

りんどう

LC通信

かわら版



平成18年
3月24日号
通巻第42号
PR委員会発行



恒例の少年サッカー教室も、雨の中を小学生の少年達は一生懸命サッカーを学んだ。アシスタントの三瀬高校のサッカー部員の諸君が熱心にサッカーの何たるかを教えてくれる。この雨の中、保護者は我が子のプレイに拍手を送る。クラブの事業として、年に二回もサッカーをやるなんてという声も出たりするが、やっぱりこうしたものは長く続けて価値の出ているものである。



さて、サッカーの歴史(起源)を編くと永い。中国では、二千年前の漢の時代から、ヨーロッパでは、ギリシャ・ローマから行われていた。イギリスでは十一世紀のはじめからフットボールが行われていた。ルールなど無く、レフェリーもないので、それこそ殴る蹴る何でもありといった、とてもスポーツと呼べるものではなく、死者を出すこともしばしばであったとか。イギリスに侵入したデーン人の首を切り、それを蹴り合ったのが始まりであったという伝説も残っている。その後、フットボールを紳士的なスポーツとするために改良され、十七十八世紀には簡単なルールも作られ、その際にサッカーとラグビーに分かれた。近代スポーツとして確立されたのは一八六三年で、ロンドンとその郊外の十一のクラブがルールの統一をはかり、「フットボール・アソシエーション(F.A.イングリランドサッカー協会)」が発足した。これが正式なフットボールの誕生とされている。日本に伝わったのは明治十一年に体操伝習所で外人教師が披露してからで、明治三十年東京高等師範学校でゲームとして正式に取り上げた。高等師範学校在学中にサッカーの良さを知った卒業生が、教師として全国各地の学校に赴任、これを奨励したので急速に普及した。大正六年、第三回極東選手権大会が東京で行われた。これが日本サッカーの初めての国際大会といえる。これをきっかけに、大正十年九月に大日本蹴球協会が創立された。その後、日本のサッカーチームは国際大会に出場する。その結果、大正十一年に全国高等学校大会、十二年に関西学生リーグ、十三年には東京カレッジ・リーグが結成された。色々な国際大会に出場しながら、昭和五年、第九回極東大会ではついに優勝するまでに成長した。一九六三年(昭和十一年)のベルリンオリンピック大会には初参加。優勝候補のスイエーデンを3対2で破る成果をあげた。第二次世界大戦のため、日本サッカーは中断していた



が、昭和二六年のアジア大会に参加することができ、やっと国際交流は復活した。その後は、皆さんご存知の様に東京オリンピックでは惜しく五、六位決定予備戦で敗退した。昭和四十年には日本サッカー(JSL)が結成され、日本のサッカー熱は急速に高まった。駆け足で、サッカーの歴史や伝統を根付かせるというのは大変なことである。一地方の少年サッカーを育てるのにはサポートするものも必要だ。我々が今後もしようとしたものに立てれば、ウィーサープの精神が生かされるというものである。